

# インフルエンザA型(H1N1)

## <第5報>

2009年5月7日(木)9時(日本時間)現在

### 1. 現在の流行状況

5月7日(木)午前1時(日本時間)現在、WHOの発表によれば、グアテマラ、スウェーデンの2カ国が追加され、23カ国においてインフルエンザA型(H1N1)感染確定症例は1,893人となっている。死亡症例はメキシコ29人、米国2人で、死亡率はそれぞれ3.1%、0.3%、全体では1.6%である。なお、国立感染症研究所情報センターによる同6日午前1時(日本時間)現在のデータは表1となる。

患者発生国のうち国内感染が蔓延しているのは米国本土、メキシコ、カナダで、日本における検疫強化もこの3カ国を対象にしている。また、このほかに「ヒト ヒト」感染(二次感染)が確認されている国は、英国、ドイツ、スペインである。スペインでは急速に確定症例数が増加しているが、持続的な「ヒト ヒト」感染の報告はなく、疫学的に感染状況を追跡できる状況という。

これを受けて、WHOは、現在の流行段階はフェーズ5であり、パンデミックの状態ではないとの考え方を示した。つまり、現時点の欧州における感染状況は、より広範なコミュニティの中で感染が見られる状況ではないという見解である。また、過去のパンデミックの経験から第二波以降の流行に備える必要性がある一方、社会活動の制限は慎むべきであることを強調した。

### 2. ウイルス情報

今回のインフルエンザウイルスは、ブタ、ヒト、トリの3つのウイルスが遺伝子再集合を起こしたものと考えられている。WHO及び有識者等によれば、本ウイルスの特性は以下のとおりである。

- ・症状は、多くのケースでは季節性のインフルエンザ様の症状(発熱、咳、頭痛等)であるが、重症のケースでは呼吸器系の疾患も見られる。また、半数の患者には下痢等の消化器疾患がある。
- ・患者の平均年齢は、20歳代中頃とされ、比較的若い年齢の患者が多い。この理由としては、60歳代以上のヒトは過去のインフルエンザ感染により抗体を有していること、多くがメキシコ渡航による感染であり、その渡航者が若年者であることなどが考えられている。
- ・潜伏期間は、1日~7日間程度と季節性インフルエンザと同程度である。
- ・抗インフルエンザ薬は治療に必ずしも必要ではないが、重症ケースには早期の投与が重要である。

現在、ワクチンの研究はCDC(米国疾病管理予防センター)等の研究機関で実施され、数週間以内にワクチンメーカーに送られるという。

		最新情報				
更新日時(世界標準時)		5 May 16:00 update 16	4 May 18:00 update 14	3 May 16:00	2 May 18:00	1 May 23:30
確定例発生国数		21カ国	21カ国	18カ国	16カ国	13カ国
国名	CFR	確定例(死亡例)	確定例(死亡例)	確定例(死亡例)	確定例(死亡例)	確定例(死亡例)
アジア・太平洋		3カ国	3カ国	3カ国	3カ国	2カ国
韓国		2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	
香港		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
ニュージーランド		6 (0)	6 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
北米・南米		6カ国	6カ国	4カ国	4カ国	3カ国
米国	0.3%	403 (1)	286 (1)	226 (1)	160 (1)	141 (1)
メキシコ	3.5%	822 (29)	590 (25)	506 (19)	397 (16)	156 (9)
カナダ		140 (0)	101 (0)	85 (0)	51 (0)	34 (0)
コスタリカ		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	
コロンビア		1 (0)	1 (0)			
エルサルバドル		2 (0)	2 (0)			
ヨーロッパ		11カ国	11カ国	10カ国	8カ国	7カ国
オーストリア		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
デンマーク		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
ドイツ		9 (0)	8 (0)	8 (0)	6 (0)	4 (0)
英国		27 (0)	18 (0)	15 (0)	15 (0)	8 (0)
アイルランド		1 (0)	1 (0)	1 (0)		
オランダ		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
スペイン		57 (0)	54 (0)	40 (0)	13 (0)	13 (0)
スイス		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
フランス		4 (0)	4 (0)	2 (0)	2 (0)	
イタリア		5 (0)	2 (0)	1 (0)		
ポルトガル		1 (0)	1 (0)			
中東		1カ国	1カ国	1カ国	1カ国	1カ国
イスラエル		4 (0)	4 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)
総計	2.0%	1490 (30)	1085 (26)	898 (20)	658 (17)	362 (10)

表1: インフルエンザ A 型(H1N1)確定症例数(5月6日1時現在)

CFR = Case Fatality Rate (致死率)

黄色は更新情報を示す。

赤色は厚生労働省が定める「新型インフルエンザが蔓延している国」を示す。

出典：国立感染症研究所感染症情報センター [http://idsc.nih.go.jp/disease/swine\\_influenza/case2009/090506case.html](http://idsc.nih.go.jp/disease/swine_influenza/case2009/090506case.html)

### 3. 各国の対策状況

メキシコ政府は同国内における最終の死亡症例の報告が4月29日であり、その後、患者数の減少が見られることから、社会活動の制限を緩和する方針を明らかにした。5月6日には官公庁や企業、レストランなどの営業を、同7日には高校や大学の授業を再開する予定である。

米国のニューヨーク市では高校における集団感染が確認され、コミュニティレベルで感染拡大はしているが、季節性インフルエンザウイルス程度の弱毒性であるとの見方から、CDCは休校措置に関するガイドラインを改定した。

なお、各国における対応は各国の日本大使館・総領事館等在外公館 website でご確認いただきたい。

【参考資料】

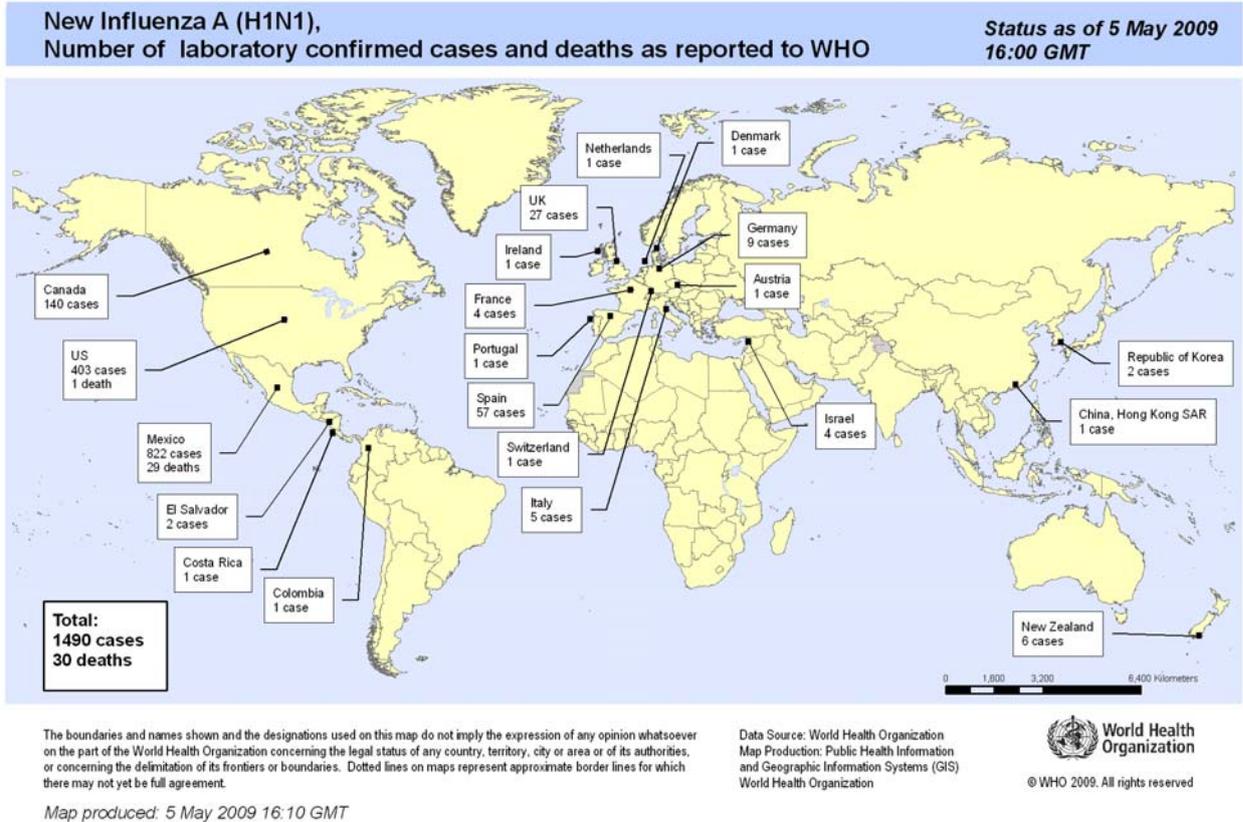


図1: インフルエンザ A 型 (H1N1) 確定症例数 (5 月 5 日 16 時 GMT 現在)

出典: WHO [http://whoterrance.vo.msecnd.net/mediacentre/swine\\_flu/GlobalSubnationalMaster\\_20090505\\_1610.jpg](http://whoterrance.vo.msecnd.net/mediacentre/swine_flu/GlobalSubnationalMaster_20090505_1610.jpg)